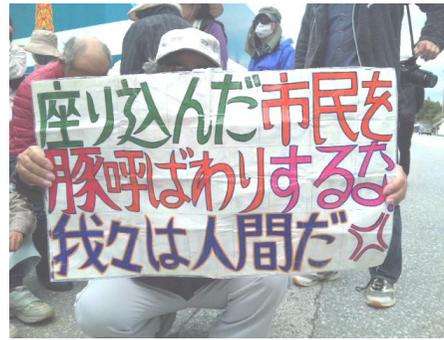


県会議員 奥村のり子の
読者ニュース



2015年12月6日 第200号
——奥村のり子生活相談所——
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
☎ & F A X 073-427-7121
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp

緊迫の辺野古を訪ねて
権力の横暴を広く宣伝しましょう



「座り込む市民の両脇を抱えて排除する際に『豚1匹確保』と暴言を吐き侮辱するのです」（「沖縄タイムス」）。写真のヨコ幕はそれに抗議しているものです。

蛮行つづく警視庁機動隊



11月30日、無抵抗の住民を排除する機動隊（右側の黒い集団）。国民の税金で「1泊2万円の高級リゾートホテルで豪遊」などとネットで書かれています。

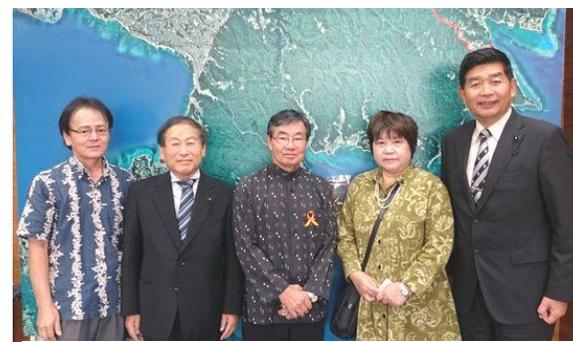
12月の週刊口誌—主なもの—
12月4日 市駅／吉宗像前宣伝 議案調査
生活困窮者自立支援法学習会
5日 あさみの会懇親会
6日 会議
7日 議案調査、原発ゼロにする県民の会
8日 一般質問日
9日 同右
10日 同右 無料生活相談日

11月25日県主催で沖縄県糸満市の「紀乃国ノ塔」において県出身沖縄・南方諸地域戦没者追悼式が行われました。
県議団で参加し、翌日は辺野古米軍ゲート前と名護市役所に立寄りしました。共産党の市会議員の仲里さんからは議会の様子など説明を受け、稲嶺市長にもごあいさつすることができました。



座り込み部隊の前で3県議

午前6時暗い中、宿舎を出発しゲート前につく頃は次第に辺りは明るくなってきました。キャンプシュワブの中から柵のような物をもった機動隊員や車両が次々と出てきて、ゲート前に座り込みを続けている市民を3人・4人がかりで両足まで抱え、車両の前後の鉄柵にかこわれた歩道に押し込めていきました。市民を排除し、工事車両を通して行きました。
翁長知事が埋め立て承認取り消しをしているのに前知事の承認を盾に工事を強行している安倍政権は犯罪的です。その姿をもっともって伝えて行く責任を感じています。連帯を築いて行く力をもっともって大きくして行きたいと思います。（奥村のり子）



稲峰進名護市長（中央）とともに



座り込み部隊をゴボウぬきする機動隊

絶望の社会保障

アベノミクスの新3本の矢が「強い経済」「子育て支援」「安心できる社会保障」と聞いたとき、「おちよくつてんのか」と思いました。「強い大企業」「子育て妨害」「絶望の社会保障」が正しいのでしょうか。

特に社会保障は改悪の一途。10月に財務省は医療、介護、年金、生活保護など64項目にのぼる社会保障の改悪メニューを打ち出し、来年度予算でも社会保障関係費の自然増を大幅に抑制しようとしています。
財務省の役人と話して感じるの

財源あっても社会保障に回さない政府

は、お金がないのではなく、社会保障にお金を使う気がないということです。財務省が導入をめざす「外来時定額負担金」はその典型。「外来時定額負担金」はその典型。病院の外来受診時に、現在の3割などの定率負担に加え100円や200円といった一定額を窓口で徴収する制度です。高齢者や慢性疾患の人など、通院回数の多い人ほど重い負担になります。制度の第一のねらいは受診抑制をはかること。第二はただ金を出せ、医療財政にカンパしろということです。タチの悪い社会保障の理念とは無縁の財源論です。しかも少額だからといって油断はできません。最初は少額でも、いったんこの制度が導入されれば500円、1000円へと引き上げられるに決まっています。大体、カンパというのは、最初は「小銭で結構です」といいながら、だんだん凶々しくなっていく「音のしないお金を」となるものです。
これ以上、安倍内閣の暴走を許せば、社会保障の制度も理念も崩壊していくと思われました。

党参院議員
大門みきし



リレートーク Relay talk Relay talk